

<会員による自著紹介> * 紹介者である会員

かかわりを拓くアクティブ・ラーニング —共生への基盤づくりに向けて—

山地弘起¹⁾ (編著)・岡田二郎²⁾・
橋本優花里³⁾・波佐間逸博⁴⁾・
西田 治⁵⁾・谷 美奈⁶⁾*・田中東子⁷⁾・
保崎則雄⁸⁾

- 1) 大学入試センター・2),4),5) 長崎大学・
3) 長崎県立大学・6) 帝塚山大学・
7) 大妻女子大学・8) 早稲田大学

ナカニシヤ出版 (2016 年発行)
定価 2,500 円 (税抜)



大きく社会が変動するなかで求められる批判的かつ創造的な共生への知恵。本書は、その基盤づくりに向けて、思考を活性化する学習活動としてのアクティブ・ラーニングを縦横に活用した大学授業を取り上げ、メッセージ・テキスト、学習の意義、実践事例、授業化のヒントを紹介したものです。学習効果を高めるポイント提案やキーワード解説、関連リソースも付しています。

本書では、かかわりをめぐる多様な学習分野を大きく「第1部 ヒトを学ぶ」「第2部 体験に学ぶ」「第3部 メディアを学ぶ」の3部に分けています。そして全体構成を、アクティブ・ラーニングの工夫と共生志向の学習内容とを捫り合わせる形とし、章を読み進めるなかで、アクティブ・ラーニングの基本的留意点からより高次のアクティブ・ラーニングの工夫へ、また基礎的な学習内容からより批判的・創造的な学習内容へ、順次検討できるようにしてみました。

「第1部 ヒトを学ぶ」に、岡田二郎(第1章 生物学から：アクティブ・ラーニング事始め私論)、橋本優花里(第2章 心理学から：教養としての脳科学リテラシー入門)、波佐間逸博(第3章 人類学から：コミュニケーションへの根源的問い)、「第2部 体験に学ぶ」に、山地弘起(第4章 身体体験という土壌：自身とのかかわりから他者とのかかわりへ)、西田 治(第5章 かかわりとしての音楽行為：音楽観の再構築にむけて)、谷 美奈(第6章 パーソナル・ライティング：考える〈私〉、それを育む「エッセー」という考え方)、「第3部 メディアを学ぶ」に、田中東子(第7章 メディアと文化：フィールド調査を取り入れた授業づくり)、保崎則雄(第8章 映像表現という活動：「本物の状況」でのメディア制作)と錚々たるメンバーが参加しており、コミュニケーション教育の新たな展開事例を知るにも役立ちます。ますます緊張度を高める社会状況で粘り強く共生を図っていくにはどこから始めればよいか。その一つの試みとして、一度手に取って見ていただくと幸いです。